



3月22日号（305号）

編集／販売総本部ブランドプロモーショングループ

古舘伊知郎さんの「もがき」とは

22日(日) = 1、3面



キヤスターの古舘伊知郎さんⅡ写真Ⅱは毎年「トーキングブルース」という独演会を開催しています。そこで展開されるのは、米騒動、経歴詐称疑惑といった時事ネタから芸能人のスキャンダルまで、多岐にわたります。ネタを毒舌で切り、観衆にわかりやすく伝える。そんな古舘節の真骨頂が繰り広げられています。

古舘さんといえばプロレスなどの実況中継がお手のもの。アイルトン・セナに「音速の貴公子」と名付けるなど、その無類のネーミングセンスでも知られます。報道ステーションのキヤスターを長く務めていたのも有名です。

現在はユーチューブ番組で世相について語る古舘さんですが、今も「もがき」といいます。その「もがき」の正体に迫りました。



※3月1日に掲載予定でしたが、紙面事情により変更となりました。再掲となります。

論点

国産レアアースの課題

25日(水) = オピニオン面



静岡市の清水港からレアアースの調査に向かう地球深部探査船「ちきゅう」

「産業のビタミン」と呼ばれ、ハイテク機器に欠かせないレアアース（希土類）。

高い生産シェアを占める中国が軍民両用物資の対日輸出規制を強める中、2月には海洋研究開発機構などのチームが、南鳥島沖の深海からレアアースを含むとみられる泥の掘削に成功しました。高市早苗首相が衆院選の期間中に再三、成果をアピールするなど期待が高まりますが、誇大に強調されているとの指摘も相次いでいます。

国産レアアース開発の未来は明るいのでしょうか。プロジェクト責任者も含め、3人の専門家に聞きました。